

新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン実施状況に関する
点検・評価報告書（平成29年度分）

平成30年9月

新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン

(29年度) 実施状況 点検・評価報告

新・国民健康保険町立南幌病院改革プランは、平成29年度から平成32年度までの4年間を目標期間とし、病院機能の見直しや病院事業経営の改革に総合的に取り組み、安定した経営を目指すものです。本プランでは、毎年、実施状況について点検・評価を行い、住民の皆さんに公表することとしています。

団体名	北海道 南幌町
プランの名称	新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン
策定日	平成29年3月
計画期間	平成29年度から平成32年度
病院の状況	
病院名	国民健康保険町立南幌病院
所在地	空知郡南幌町元町2丁目2番1号
病床数	80床（一般26床 医療療養54床）
診療科目	内科・外科・小児科・眼科
役割の明確化	北海道が試算した2025年における南空知圏域の必要病床数は1925床で、2014年の病床数は2390床より465床の減となっている。また、南幌町の受療動向は江別市など札幌圏が高い状況にありますが、札幌圏も同様に1307床の減となっています。しかしながら、町立病院の主な患者の年齢層でもある75歳以上の高齢者においては、2025年以降も増加し、南幌町では2040年がピーク年と推計され、江別市、札幌市においても高齢者人口は増加します。このことを踏まえ、医療需要の増加を見込み現行の病床数を維持し、引き続き療養病床の見直しに関する国の検討状況等を踏まえつつ対応していくこととしています。また、江別市立病院との医療連携を軸に、町民が安心して暮らせるよう、身近なかかりつけ医としての機能を基本に病院づくりを進め、町内唯一の病院として町民の健康管理はもとより、救急医療を維持します。

点検・評価・公表の体制

点検・評価・公表の体制

- ・点検：院内で実施
- ・評価：行政経営幹事会で実施
- ・公表：町ホームページで公表する

点検・評価・公表の時期

- ・点検：毎年6月下旬頃
- ・評価：毎年9月～10月頃
- ・公表：毎年11月頃

○新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン（29年度）の実施状況について

国民健康保険町立南幌病院が安定した医療を提供していくためには、健全な事業運営が不可欠であり、「新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン」に沿って「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」、「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」の4つの目的を設定し、本プランを策定したものであり、その実施状況の点検結果について評価するものです。

数値目標に対する実績としては、時間外受診者については前年より96人増となる一方で、訪問診療件数では前年より23人の減、看取り患者数では9人の減、紹介者数では53人の減で目標値を大きく下回っています。しかしながら、経常収支比率及び医業収支比率では、いずれも目標値を上回っており、医療連携による入院患者数の増加が影響しています。しかし、現状では収支の黒字化が図られたわけではなく、一般会計からの繰入金を受け入れている状況であることから、今後においても病棟整備や他の医療圏に流出している患者を受け入れるための更なる連携強化、在宅医療充実、救急医療の受け入れ等により、医業収益の増収を図り、経営の効率化に努める必要があります。

なお、本改革プランの詳細については、「新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン」本体をご覧ください。

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

1.地域医療構想を踏まえて

南幌町では、2040年に高齢化のピークが到来すると言われています。このことから、引き続き町内唯一の病院としての機能を維持しながら、国が進める病床の見直しにも対応していかなければなりません。また、療養病床転換については、今後、町立病院検討会議で本格的議論が進められることとなり、高齢化に対応した病院づくりが必要となる。

2.地域包括ケアシステムの構築に向けて

これからの時代は医療と介護が総合的に確保されることが求められており、本町も決して例外ではありません。このことから、町保健福祉課と医療現場の連携が重要となります。29年度においては、町保健福祉課で行われている各種会議等に参加し情報の共有を図っています。また、町が行う健診等にも積極的に協力し、町民の健康維持に努めています。

3.一般会計負担の考え方

29年度は、安定的な病院経営のため、総務省から通知されている繰出基準の考え方に基づき「新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン」にも明記されている一般会計負担の算定基準により、274,720千円の繰出しが行われた。今後、一般会計からの繰出しが少しでも少なくなるよう診療体制の安定化や病床転換などを含め様々な努力が必要となります。

4.医療機能等指標に係る数値目標

項目	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	H31目標	H32目標
時間外受診者数	280	280	313	409	260	260	260
訪問診療件数	56	51	130	107	120	120	120
看取り患者数	44	35	57	48	50	50	50
紹介者数	126	117	120	67	160	160	160
逆紹介者数	35	28	44	41	55	55	55

経営の効率化

1.経営指標に係る数値目標

	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	H31目標	H32目標
経常収支比率	99.3	94.4	101.1	99.8	100.0	100.0	100.0
医業収支比率	72.6	66.7	68.8	60.0	59.9	59.9	59.9

2.目標達成に向けた具体的な取り組み

経営の安定性

項目	具体的な取り組み (計画)	実施状況の点検結果	評価 (◎順調 ○やや遅れ △遅れ ▼見直し)	
			H29	評価所見
①医師の確保	現在の診療体制の維持を基本としつつ江別市立病院との連携や札幌医科大学等関係機関への働きかけにより、安定した医療供給体制の確保を図ります。また研修医を確保することは、大きな戦力となり、活性化にもつながります。江別市立病院における専門研修プログラムの連携施設となることで、研修医の確保を図ります。	江別市立病院との医療連携協定の更新により、総合診療医2名の派遣を受け、安定的な診療が行えた。また、札幌医科大学より週1回、内科医の派遣を受け、外来・内視鏡検査もこれまで同様に維持ができた。	◎	医師の確保については、概ね順調に推移している。 札幌大との連携も概ね順調である。しかし、今後は更なる医師派遣に関して連携が必要である。
		研修医については、現在、江別市立病院の医師不足の問題もあり、実現していない。	△	江別市立病院の医師不足の解消に向けた動向に注意する。
②医療スタッフの確保	現行の体制を基本に必要な医療スタッフを適切に配置できるよう離職率の低い働きやすい環境づくりに努めるなど、勤務環境の改善を図ります。	院長との個別面談により、各個人の要望等を聞き取り働きやすい業務環境へと反映している。このため29年の離職は発生していない。	◎	順調に推移している。 今後も職員の意向については、各種会議等を通して調査していく。

③ 事務職員の人材開発強化	医療をめぐる環境の変化に対応するため、研修会等の参加により専門知識を有する職員の育成、人事管理に努めます。	病院経営にかかる研修会等には積極的に参加している。 レセの請求漏れ等をなくすため、医事担当の委託職員とも連携をとっている。	◎	レセプト請求において、疑問に思うことは随時委託会社本社と連携をとり対処している。経営に関する研修会へも随時職員を派遣している。
④ 施設・設備整備	採算性を考慮し、必要な医療機器等の整備を進めると共に、安全かつ快適な療養環境づくりのための施設・設備の整備に努めます。	補修が必要な箇所については、随時補修を実施している。特に29年度は、空調設備、排水関係、トイレの改修、屋上防水工事等を実施している。医療機器についても電動低床ベッド、デュアルスケール、スパイロメーター等を更新している。	◎	適正に補修等が実施されている。 今後も施設の老朽化により補修箇所が多く発生する可能性があるため、より一層の点検が必要となる。

収支改善

項目	具体的な取り組み (計画)	実施状況の点検結果	評価 (◎順調 ○やや遅れ △遅れ ▼見直し)	
			H29	評価所見
① 医業収益の確保	江別市立病院や近隣医療機関との連携を密にし、安定した収入の確保に努めると共に、病院についての広報に取り組みます。また、心診療報酬の改定や施設基準の見直しに対応し、安定した収入の確保に努めます。	地域医療連携により、江別市立病院からの入院紹介も多くなり収入確保につながっている。	◎	年度後半が少し落ち込んだが、ほぼ順調に推移している。
		病院日より、ホームページ、フェイスブックに随時記事等を掲載し、病院内部での活動を広く広報した。	◎	町民からの評判もよく、順調に推移している。
② 適切な診療報酬の請求	診療報酬の医師・看護師への積極的な情報提供と改定時における説明会を開催し、幅広くスキルアップを図り、請求精度の向上、返戻・査定減の防止に努めます。	必要な研修会へは積極的に参加させ、看護・医療技術者・事務員等スキルアップを図っている。レセプトの返戻については、毎月返戻リストを提出させ原因を追究している。	◎	レセプトの返戻も少なく、順調に推移している。
③ 未収金の発生防止と改修対策	速やかな催告などを引き続き行い、状況によっては分割納付に応じるなど、未収金の発生を未然に防止すると共に、法的措置の検討など債権回収の強化に取り組みます。	未収金については、時効中断のため適時請求行為を行っている。未収金が発生しそうなときは、相手の話をよく聞き分納などの相談に応じている。	◎	未収金発生予防に積極的に取り組み、過去の整理も行い安定的な管理が行われている。

再編・ネットワーク化の取り組み

1.医療圏域内の状況

町立病院は、南空知圏域ではなく札幌圏域区分設定が行われ、江別地区部会（江別市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町）に属した中で公立病院は江別市と南幌町であり、更なる連携強化が必要となってくる。このため、平成29年度も江別市との地域医療連携協定を更新し、安定した医師派遣や入院医療等の協力を得ることができた。

2.再編・ネットワーク化の方向性

現在は、江別市との医療連携協定だけであるが、今後は札幌圏域江別地区部会の各市町村との連携も視野に入れながら、医療連携ネットワークの構築を進め、安定した医療提供ができる病院でなければならない。

経営形態の見直しに対する方向性

1.現 状

地方公営企業法の一部適用により財務規定等のみを適用し運営する形態をとっている。平成29年度についても変更はしていない。

2.見直しの方向

1.地方公営企業法の全部適用

制度上は経営責任を持つ事業管理者に運営に関する広範な権限が付与されることから、より自律的な運営を行うことが可能となるが、多くの病院においては、職員定数の制約や事業管理者に対する権限移譲が十分なされていないことなどにより、制度のメリットを生かした運営が行われているとはいえ、全体的な経営状況を見る限りにおいても、一部適用と比べ大差はないことから、経営改善効果としての明らかな優位性はないと考えます。

また、経営改善は事業管理者の力量にも大きく左右されるため、病院運営に関する見識はもとより強いリーダーシップや優れた経営感覚を持つ人材の確保も課題となります。このことから、29年度については現状維持としています。

2.地方独立行政法人化（非公務員型）

組織体制の充実・強化に向けた職員の増員や複数年契約の採用によるコスト縮減など、弾力性、迅速性のある自律的、効率的な運営が行われ、経営改善効果はあると考えます。

職員の処遇問題については非公務員となることから、十分な調整が必要となるほか、多額の初期費用や新たに発生する経常経費などコスト増加も課題となることから、今後さらなる検討が必要である。

3.指定管理者制度の導入

民間事業者の経営ノウハウを活用した効率的な運営が行われ、経済性の確保においては有効である。職員の退職が前提となるため多額の退職に伴う負担金が発生するほか、引き受け先で引き続き勤務する場合においても身分は非公務員となるため、処遇について十分な調整が必要となる。指定管理者の引き受け先がない場合や自らの経営難などの理由により事業の継続が困難となった場合、後継となる医療法人等が見つからないときは地域の基幹病院を失う結果となり、政策医療はもとより地域医療を確保するという点において重大な課題が残ると考えます。

4.民間譲渡

経営状況に見合った給与設定による人件費の削減をはじめ民間事業者による効率的な運営が期待できるものの、全職員の退職が前提となるため多額の退職に伴う負担金が発生するほか、譲渡先で引き続き勤務する場合においても身分は非公務員となるため、処遇について十分な調整が必要となる。また、運営に対する町の関与が相当薄まることに加え、譲渡後に自らの経営難などの理由により事業の継続が困難となった場合、後継となる医療法人が現れないときは地域の基幹病院を失うこととなり、政策医療はもとより地域医療を確保するという点において重大な課題が残る。特に近年は、反社会的勢力組織が経営する病院経営コンサルタント会社も多いことから、民間譲渡については、これまで以上に注意しなければならないと考えます。

5.事業形態の見直し

平成 29 年度については、医療療養病床の廃止の時期について国の動向に注視していたが、はっきりとした回答が出ていないのが現状です。今後、医療療養病床の廃止情報が決まった段階で、町立南幌病院としてこれに代わる病床をどうするのか、また、将来的に不足するとされている回復期の病床導入をどうするのかを本格的に議論しなければならないと考えます。